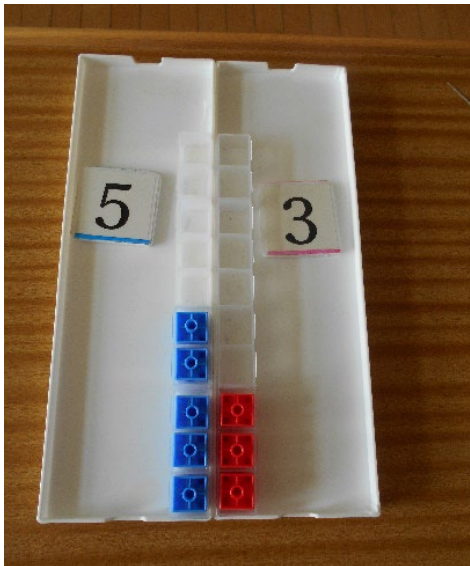


二つの数を比べて数の大小が分かることの指導 ～数字カードとブロックの教材を使った事例～			
学部・教科	中学部・数学科	事例コード	2220
学習グループの実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学部3学年（2名） ・ 数字カードやブロック等の具体物を操作しながら1～10の数に親しんでいる。 ・ ブロックの数を見比べて、多い方を選ぶことができる。 ・ 言葉でのやりとりが成立するが、「多い・少ない」の用語は未定着である。 		
単元(題材)名	『数を比べてみよう～10までの数～』		
学習指導要領の内容	算数科／小学部2段階 A数と計算 ア 10までの数の数え方や表し方、構成に関わる数学的活動 (ア) ㊸㊹、(イ) ㊺		
単元(題材)の目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	ものの集まりや数詞と対応して数字が分かる。【Aア(ア)㊸】 二つの数を比べて数の大小が分かる。【Aア(ア)㊹】	数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすことができる。【Aア(イ)㊺】	数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとする。【小学部2段階A目標ウ】
単元(題材)の計画	総時数 14時間 1 「多い」「少ない」「同じ」の言葉の意味を知る。・・・・・・・・・・ 2時間 2 個数を表す具体物を直接比較する。・・・・・・・・・・ 8時間 (1) それぞれのブロックを並べた個数の比べ方を知る。 (2) ブロックを操作しながら、個数の違いに気付く。 (3) 「多い／少ない／同じ」の用語を使って、個数の違いを自分で決定する。 3 数字を用いて数の大小を比較する。・・・・・・・・・・ 4時間		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に関心をもてるように、二つの数字を自分たちで選ぶようにした。 ・ 数詞とものを正しく対応させられるように、ブロックを一つずつ数えながらケースに入れたり、ケースから取り出したりする活動を行った。選んだ数字の数に着目してブロックを一つずつ数えながら取ることができた。 ・ 個数の違いを実感できるようゲーム形式で数字を取り出し比べる活動を行った。 ・ 自分のブロックと友達ブロックを並べて、どちらが多いかを指差して比較して楽しむことができた。 ・ 「おおい／すくない」言葉のカードを提示し、言葉を意識して表現するようにした。学習を通して「おおい／すくない」を自発的に表現する姿が見られるようになった。 		



数字カードとブロックの教材